

第1回 鶴川・沙流川 減災対策協議会 議事概要

日時：平成28年5月31日（火）10:30～12:00

会場：平取町中央公民館 大ホール

構成員：室蘭開発建設部長、

胆振総合振興局長（代理出席）、日高振興局長（代理出席）、
むかわ町（代理出席）、平取町長、日高町長（代理出席）、
室蘭地方気象台長、北海道旅客鉄道（株）（欠席）

《議事内容》

- ① 「水防災意識社会 再構築ビジョン」の取り組みについて
- ② 減災対策協議会の設置趣旨について
- ③ 減災協議会の規約について
- ④ 現状の水害リスクや取組状況について
- ⑤ 減災のための目標等について
 - ・5年間で達成すべき目標および目標達成に向けた”3本柱”の確認
- ⑥ 今後のスケジュール確認
 - ・適時、幹事会を開催し、避難、水防、排水活動等、今後5年間を目処に取り組む「地域の取組方針」を次回協議会（8月下旬予定）で策定することを確認。
 - ・その後「取組方針」に基づく実施状況等は、毎年フォローアップすることを確認。

《協議会委員からの主な意見》

（胆振総合振興局長：代理）

- ・近年豪雨による甚大な被害を踏まえ、市町村に対して災害に対する新たな研修、訓練、人材育成サポートなど取り組んで参りたい。

（日高振興局長：代理）

- ・訓練の就実について、外部評価も取り入れ充実させ、訓練、防災研修、市町村への支援、育成サポート、人材派遣制度の活用など取り組んで参りたい。

（むかわ町長：代理）

- ・むかわ町は、広大な面積を有し、それぞれの地形、地質、気象特性の沿川集落に対して、地域に沿った対応が必要。そのような分散している地域で町の防災体制として、自主防災組織の訓練、支援、助成など取り組んでいる。また、リーダー育成、組織化、小さい自治会の対応が課題。訓練も同じ事ばかりではなく、色々なパターンで考えていく必要がある。

(平取町長)

- ・平成 15 年洪水では越水近くまで水位が達し、産業や町民の安全・安心のため二風谷ダム、平取ダムの建設、堤防の整備、河道掘削によるハード対策により万全な対策が必要不可欠。堤防整備の予定が無い無堤地区も、家畜やハウスなどがあり、平成 15 年洪水で流されたこともあり、そのような地区の対応も必要。災害は忘れた頃にやってくると言うが、最近では忘れぬうちにやってくる。災害で苦しんできた歴史から安全に暮らせるように取り組むことが必要。ソフト対策も地域自主防災組織の訓練、タイムラインの検討など今後も関係密に取り組んでいくことが必要。

(日高町長：代理)

- ・防災に関する取組、訓練、技術力向上を進めている。過去洪水や全国で起きている災害を思うと、まず逃げると意識、自主防災組織の育成訓練が必要。浸水しやすい低い土地も栄え、生活しており、防災について自分たちで守る、自助、共助などにより対応することが必要。

(室蘭地方気象台長)

- ・気象台の役割は適時・的確に分かりやすい防災情報を出すことだが、使っていただければ有効な防災・減災に結びつかない。平成 29 年度から新たなステージに対応した、視覚的にわかりやすい防災情報の提供を開始する（平成 28 年出水期前から試行開始）。使っていただけるように防災情報をわかりやすくする取り組みを進めて参りたい。

(室蘭開発建設部長)

- ・資料 4 の補足として、大雨は夜中にかけて降ることも多く、各種対応、避難の参考になるよう、過去洪水の雨・水位ピーク等を整理すると良い。
- ・住民の方に意識してもらうためにも、今後とも住民の方から見て解説が無くてもわかるような資料を発信し続けたい。協議会においてアイデアをもらいながら住民の役にたてるように、取り組んで参りたい。